

# 第1回 社会教育委員会議 議事概要

## 1 議事

(1) 議長及び副議長の選出について

(2) 報告事項

① サッポロサタデースクール事業について

② 第3次札幌市生涯学習構想について

(3) 協議事項

① 社会教育委員会議の進め方

② 社会教育委員会議の協議テーマについて

## 2 日時

令和3年(2021年)8月30日(月)10時00分～

## 3 場所

STV北2条ビル地下1階 A・B会議室

## 4 出席者

(1) 委員(出席10名)

一戸委員、臼井委員、鈴木委員、高橋委員、出口委員、中野委員、本間委員  
オンライン参加：榊委員、出葉委員、安田委員

(2) 事務局(9名)

檜田教育長、丹尾生涯学習部長、村上生涯学習推進課長、小柳生涯学習係長、  
逸見推進担当係長、寺崎社会教育担当係長、渡辺職員、菊川職員、前崎職員

## 5 開催形態

公開(マスコミ関係者1名傍聴：北海道通信社1名)

## 6 会議内容

配布資料 資料1：札幌市社会教育委員会条例

資料2：札幌市社会教育委員会条例施行規則

資料3：社会教育委員名簿

資料4：サッポロサタデースクール事業概要に係る資料

資料5：第3次札幌市生涯学習推進構想

資料6：今期の社会教育委員会議の進め方について

資料7：社会教育委員会議の協議テーマについて

資料8：昨年度の社会教育委員会議報告書

(1) 議長及び副議長の選出について

議長に鈴木委員、副議長に出口委員を選出した。

(2) 報告事項

① サッポロサタデースクール事業について

ア 事務局からサタデースクールを取り上げた広報番組の動画及びパワーポイントの資料等を用いて、サッポロサタデースクール事業（以下「サタデー」という。）の概要について説明を行った。参考資料：サタデースクール通信

以下、説明要旨

- ・サタデーの運営について
- ・地域学校協働活動について
- ・サタデーで提供するプログラムについて
- ・実施校の推移
- ・今後の事業推進に係る方向性（寺崎係長）

イ 主な意見・質疑応答

- ・この事業を実施するに当たり、最初のきっかけとしては、学校側から地域の方々に働きかけているのか、それとも、地域の方々から学校側に働きかけているのか、どちらのケースが多いのか。また、予算に限りがあるのか近年はコロナの影響で実績があまり伸びていないが、希望した学校はほぼ実施できているのか。（出口副議長）

→一緒に活動する団体のめどが付いている学校から、来年度実施したい旨の意向をいただき、運営協議会を設置することが多い。予算については、昨今のコロナ禍の状況で実施校も少ないため、希望する学校に対しては、希望の委託料をお支払いできている状況である。（寺崎係長）

- ・つまり、実施の可否は、学校の受け入れ態勢がポイント。加えて、運営協議会そのものが、コミュニティ・スクールの委員と重なるため、コミュニティ・スクールの推進に結びつけることができれば、大事な施策になると思う。コミュニティ・スクールについては、学校教育の担当サイドで進められていると思うが、

そちらも併せて取り組むべき。北海道では、ほとんどの自治体でこの取組が進められており、全国では約1万校、全国の小中学校のうちの3分の1で既にコミュニティ・スクールが導入されているので、次回以降、これらの動向についても併せて説明いただきたい。（出口副議長）

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、昨年度の実施校はかなり激減しているのがわかるが、サタデースクール通信に掲載されているこの3回しか開催していないのか。（安田委員）

→昨年度は、当初43校が実施する予定であったが、実際に契約した学校は15校。さらに、コロナ禍になり3校が契約解除となったため、実際の実施校は12校になっている。また、プログラムの実施回数は、12校32回で参加した児童は1,165人。サタデースクール通信の事例については、視察したものを参考事例という形で普及啓発を目的にしている広報物のため、全てのプログラムを網羅して掲載しているわけではない。（寺崎係長）

- ・運営しているNPO法人において、YouTubeなどに力を入れて子どもたちにオンライン配信をしていたのだが、サタデースクールではそのような手法を取った団体はあるか。（安田委員）

→昨年度は、オンラインでの実施はなかった。ただ、今年度中学校において、学習会をハイブリッド方式で実施した学校が1校あった。その事例が、初めてオンラインを使った取組になると思っている。（寺崎係長）

- ・小学校において、ネット環境が整っていない子どもたちはいるか。それとも、全ての学校ですでにiPadなどが配られているのか。（安田委員）

→おそらく、タブレットは1人1台当たっていると思うが、サタデースクールに使っているかどうかは、こちらでは把握していない。（寺崎係長）

- ・先ほど、学校からの働きかけが主だということだったが、PTAからの働きかけで行った例はあるか、また、PTA協議会からも、区P連を通して、このような事業がある旨のインフォメーションをするなどの普及などを行って良いものなのかというのをお聞きしたい。PTAは、地域と学校をつなぐ潤滑剤だと思っており、今後進めるコミュニティ・スクールについても、こういった活動を通して何かの役割を担えると思う。（中野委員）

- ・学校には、サタデースクールの申込みや説明などの案内はあるが、PTAや協力

していただくことになる地域、例えば連町やまちづくりセンター、町内会長さんのところに同じような案内が同時期に配布されていたりするのかな。そのような動きがなければ、おそらく今後も学校からの話のみになると思う。（本間委員）

→運営協議会設置の働きかけについては、まずは学校から地域の団体、特に一番近い関係であるPTAの方にお話があるのかなと思っている。私どもも、PTAが活動の中心になっていただける団体と考えており、昨年度では、区P連の総会にて、各学校に向けてサタデースクール事業の周知をさせていただいた。本来であれば、総会の前に説明ができればよかったが、コロナ禍で区P連総会自体が全て中止となってしまったので、各学校に資料だけ配付させていただいた。

また、サタデースクールの実施に当たって、常日頃からPTAやおやじの会、ミニ児の児童指導員さんや青少年育成委員、子ども会などに関わっていただいているので、それをまとめて運営協議会という形で設置していただき、それぞれが得意な分野でのプログラムをしていただければいいかなと考えている。昨年度は、PTAが学校に一番近い存在ということもあって、もともとPTAで実施している行事をサタデー化できないかと考え、サタデースクールに御協力いただきたい旨の案内をしたところ。今年度については、感染状況拡大により、サタデースクールの実施自体も厳しくなっているため、このような働きかけも厳しい状況になっている。

なお、まちづくりセンターや町内会、地域の団体向けの広報などは、実施しておらず、学校発信になってしまっている。この事業は、参加している子どもや保護者の方からは、好評ではある一方、校長先生や教頭先生が頑張らないと駄目な事業になっていることも事実。地域主体の事業となるよう、地域の担い手を探し、一番期待しているのはPTAの方々でもあるのだが、今学校に携わっている方の中で今後担っていただける方がいれば、学校の負担も減ることになり、結果として実施校が増えていけば良いなと考えている。（寺崎係長）

・資料では、令和元年の実施校は令和2年も実施しており、良さが分かった学校は継続しているが、例えば令和2年に新しく実施した学校があったかをお聞きしたい。小学校に関しては、校長先生をはじめPTA会長さんやPTAの役員さんと接する機会が多いので、その際に学校側から提案をしていただくのが一番やりやすいと思う。校長先生の意欲や関心度も、事業実施にかなり関係あると思うの

で、校長会とかで雑談程度でも構わないので、実施してとてもよかったという話が出ればまた違ってくるのでは。大変かもしれないが、大変良い事業だと思っているので、子どものため、地域の方々を巻き込んで実施して行ってほしい。（高橋委員）

→令和2年度からの新規校はあったが、コロナ禍で実施できなかった。以前は、毎年10校ずつ実施校を増やしていたが、学校の負担になっている意見も多々あったことから、平成30年度以降は学校側から手をあげていただく方式に変えたため、伸び率が若干鈍くなっているところ。校長先生、教頭先生が専ら汗をかいていただいているような状況であるが、良い事業であるので、例えば、校長先生が赴任前の学校でサタデースクールをやっていて、異動した赴任先が未実施だった場合、新たにそこで始めたり、逆に、赴任前の学校で、サタデースクールをやっていなかった先生の場合は、これまでどおりの実施が困難になるケースもある。また、地域の方が熱心に取り組んでいただいているところもあり、そういうところは学校というよりは地域で回していただいているので、毎年、活動が継続されていくパターンもある。今のところ、一度サタデースクールを実施した学校は比較的継続していただいているのかなというところ。（寺崎係長）

- ・今日配付されたサタデースクール事業の資料は、公表しても良いか。（中野委員）

→公表して問題ない。（寺崎係長）

- ・本件については、市P協からも区P連、単Pに向けて告知していきたいと思う。（中野委員）
- ・例えば、集まらなくても可能なリモートを生かしたサタデースクールでは、先ほどのGIGA構想の1人1台与えられているタブレットを休みの日に持ち帰って活用できるようになると、操作が苦手な子どもたちも、Zoomの使い方などを学べる学習機会につながると考える。

また、サタデースクールが一つの実践の場として位置付けられれば、今後、感染症が収まっても、GIGA構想などに取り入れて、今この時期だからこそできることをどこかの学校で実践していただきたいと思う。GIGA構想のタブレットがそういうことにも自由に活用できると良いなと思っているので、何かコロナ禍に関わって、今後の進め方として検討されているような話があるかどうかとい

うのお聞きしたい。(本間委員)

→コロナ禍で、オンラインのプログラムは若干増えてくるのかなと思ってはいるが、現時点では、1校しか実施していない状況。もし、オンラインの取組を実施する学校があれば、こちらで視察に行き、サタデースクール通信などを活用して各実施校へ周知していきたいと思っている。何か良い実施手法があれば、今後参考にさせていただきたいので、ぜひ、ご教示をよろしくお願ひしたい。(寺崎係長)

- ・学校側のハードの整備状況については、急ピッチで進められており、現在、小学校でも全員分クロームブックが配付され、Wi-Fiもあり、授業でもかなり利用されてきている状況。整備が整った今、学校の中ではかなり利用が推進されてきている状況だが、学校が休校になった場合に、機器を自宅に持ち帰り、これを学習の保障として利用するというのは学校側がまだ慣れていない。教育課程担当課からは、子どもにそういう状況が生じたとき詳細な対応方法をどのようにするのかといったことについての通知が出るというように聞いている。つまり、子どもたちが機器を自由に使いこなすということになるには、もう少し時間がかかるのかなと思う。

ただ、子どもたちにとってクロームブックが文房具等と同じように学習で使うものとして身近なものになっていくように、一生懸命取組を進めているところである。モデル校的に進めている学校もあり、その資料等を私たちに還元していただいているような状況があるので、ハイブリッド型として始める学校は今後少しずつ増えてくるのかなと思う。(出葉委員)

- ・まさしく制約条件とか、いろいろな課題もあるかとは思いますが、やはりポストコロナ、ウィズコロナ時代で、何らかの形でやはり今後もICTですとかDXの教育が普及していくかと思うので、そういった中でいろいろと考えていくことも重要ではないかなと思ひました。(鈴木議長)

## ② 第3次札幌市生涯学習推進構想について

ア 事務局から資料5「第3次札幌市生涯学習推進構想」を用いて説明

以下説明要旨

- ・全体構成

- ・ 策定に至る経緯
- ・ 構想で目指す姿と基本施策
- ・ 3つの重点施策
- ・ 構想の推進体制

今後、関連事業について、所管課における実施状況を取りまとめた上で、この会議で報告をさせていただく予定。また、市民アンケートの項目についても、追加すべき内容等について、今後、この会議で御意見を賜りたいと考えている。（小柳係長）

#### イ 主な意見・質疑応答

- ・ 時間の関係で、この後に協議事項を控えているので、まずはそちらを先にやらせていただいて、時間があれば御質問を受けたいと思う。また、本日時間がない場合は後日、事務局にお寄せいただいて御回答していただくということで進めたい。（鈴木議長）

### (3) 協議事項

#### ① 今期の社会教育委員会議の進め方について

ア 事務局より資料6「今期の社会教育委員会議の進め方について」を用いて説明

以下説明要旨

社会教育委員会議で扱う項目について

- ・ 報告事項
- ・ 諮問
- ・ 協議事項

これまでは2年間を通して一つの協議テーマを設定し、その報告書を作成いただいていたところ。しかしながら、これまでの協議の進め方では、今まさに我々が直面しているコロナ禍のような社会情勢等の急激な変化に対応した議論ができないということがあり、その結果、本市の社会教育における真に必要なテーマで協議ができていないというような課題があった。このため、多様性が求められ複雑化した現代社会において、より広範な、広い範囲での市民の皆様に対し、社会教育委員の皆様の見聞や気づきなど、そういったものを還元できるようにするだけでなく、よ

り自由な観点から皆さんに活発な議論を行っていただくことができる環境を醸成するというを目的に協議事項の進め方を変更したい。

そのため、今期については、2年間を通して一つのテーマで協議を行うのではなく、複数のテーマを扱うこととし、報告書に関しても、2年間を通して一つのものを作成するのではなく、2年後の任期末に議事録集の取りまとめをするということとしたい。なお、令和3年度の会議スケジュールをお示しさせていただいているが、コロナの感染状況によっては、この予定についても変更を余儀なくされることがあるので、あらかじめ御理解、御承知おきいただきたい。（逸見係長）

#### イ 主な意見・質疑応答

事務局からの説明のとおり、今期は複数テーマについて、御意見賜り、各委員の様々な経験の中での関心や、課題と感じていることを出していただき、この場で議論してまいりたい。今期については、先ほど申し上げたような形で、複数テーマで進めさせていただくこととしてよいか。（鈴木議長）

→異議なし。（全委員）

#### ② 社会教育委員会議の協議テーマ

ア 事務局より資料7「社会教育委員会議の協議テーマについて」を用いて説明  
以下説明要旨

令和2年9月の第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理で1、生涯学習・社会教育をめぐる現状・課題として取り上げられたテーマと、先ほど御説明があった本市生涯学習施策の第3次構想の施策体系との関係性を踏まえ、具体的な論点を取り出した資料。

・「人生100年時代と生涯学習」。

現在は、高齢社会の進展とともに健康寿命が延び、人生100年時代と言われるような時代であり、こうした時代にあっては、市民一人一人が生涯にわたって必要な学びを通じ成長し、心身の健康を保持しながら活動できるよう、趣味の充実や健康維持といった身近なテーマから新たな技能の習得や学究的なテーマまで、幅広い内容を習得できる学びの場が求められている。また、このような学びの場や機会を拡充していくことで、これからの地域社会が一層活性化していくのではないかとということが期待される。こうした状況を踏まえると、「人生100年時代と生涯学

習」というテーマにおいて、論点として、これからの時代に必要な学びと効果的な学習機会の提供方法とはという論点や、人生に活かせる学びとするためには何が必要かといった論点で御議論いただいてはどうかと考えている。

なお、この左側の朱書きで記載した内容については、本市3次構想の施策の体系の中で関連する部分を記載しており、このテーマであれば、高齢期を豊かに過ごす学びの充実や、学んだ成果を地域で生かす取組の充実といった取組につながるものと考えている。

- ・「情報社会の進展と生涯学習」

昨今のコロナ禍においても、例えばワクチン接種等で、高齢者等のICT弱者対策が問題となったところで情報社会の目覚ましい進展に伴い、社会の在り方そのものが大きく変化し、我々の生活にも影響してきているところである。

こうした状況は今後も一層進むものというふうに考えることができるかと思うが、結果として、ICT機器を利用できる者とそうでない者の間の格差、デジタルディバイドと言われているが、これが生じていることも事実で、こうしたICT弱者に対する効果的な学習方法と学習機会の提供、あるいは、そういった場が必要ではないかというところ。また、コロナ禍においては、従来型の対面形式による学びが難しくなっており、ICT技術を活用した新たな学びの形態が求められている。こうした状況を踏まえると、具体的な論点としては、ICT弱者に効果的なスキルアップの方法や、情報化社会において取り残されないために必要な学習手法や学習機会の場とは何か。あるいは、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて、アフターコロナ時代における生涯学習の形とはどのようなものかといった点について、改めて議論をしてみるのはいかがでしょうかというテーマとなる。

- ・「子ども若者の主体的な社会参加と多世代交流」

少子化が進み、加えて変化が激しい時代を迎えているが、そうした時代だからこそ、子どもや若者が地域の課題解決に主体的に参加し、地域の一員として自ら考え、地域の方と協働し、具体的な解決策を考えるという経験は、将来の社会の担い手を育むことにつながるということになる。

また、コロナ禍において、タブレットの導入など学びのデジタル化が進む一方で、校外学習や野外体験など子どもの実体験の機会が減少しているのではないかと懸念される。昔も今も子どもや若者の成長にとって体験活動は必要かつ重要な

ものと考えられ、オンラインによる取組と対面による取組、この両者の組み合わせによって、学びはさらに豊かになると考える方もいると思われる。

こうした時代背景を踏まえ、具体的な論点としては、札幌の地域性を踏まえて、子どもや若者を主体的に社会参加させる工夫、これはどういったものなのか。また、子ども、若者に必要な体験活動・社会参加とは何か。そして、社会教育として捉えたときに、学校と地域の連携と役割分担についてどうあるべきかを議論してみてもどうかということである。

以上、あくまでそれぞれのテーマから具体的な論点を取り出したとしたら、こういうことになるというのではないかというような例であり、あくまで一案なので、中教審の資料や事務局でお示しした上記内容にこだわらず、委員の皆様の自由な切り口で論点を御設定いただき、御協議いただければなというふうに思う。

- ・テーマを決めていただく上で、特に意識していただきたい三つのポイント
  - ① 札幌市の生涯学習・社会教育をめぐる現状や課題を踏まえているかどうか
  - ② 第3次構想など市の施策に関連する内容で、社会教育に資するテーマであるか
  - ③ 意見交換の結果を市民に還元することを意識して、具体的な論点を含む協議テーマとなっているか（逸見係長）

#### イ 主な質問・意見

- ・どれも協議テーマとして今話された三つ全て、素晴らしいと思う。特に最初の「人生100年時代と生涯学習」、先ほども議論にあった高齢者のデジタルディバイドも含めて、時代変化の中で、各年代の人たちの生涯学習というのがもう一回見直されていくところがあるのではないのかなというふうに思う。各年代の生涯学習の在り方、これはもう一回問い直されるべきなのではないのか。何か人生100年時代というと、すぐ高齢期という形で捉えられがちだが、人生100年時代の中で、例えば青年期、成人期であったときに、40代、50代はどうあるべきなのかというようなこと。それがその後の、高齢期になった人たちの豊かな人生をやっぱり左右していくのではないのかなというようにも踏まえて、自分の人生を豊かに彩るところから関心を持って学んでいくことができればと思う。人生100年を豊かに過ごすためには、人々が生涯学習をどのように生かしていくべきなのかということを考える必要があると感じており、特に最初のテーマに感じるものがあつた。（臼井委員）

- ・この三つのテーマのどれも本当に良いなと思っているが、進め方というのはどうなるか。例えば、三つのテーマを、A、B、Cとしたら、Aを最初に話し、Bを後半に話し、Cは来年という形で議論していくことになるのか。それとも、毎回三つのテーマを並行して議論するのか。どういうスタイルになるのか？（本間委員）

→この資料7については、あくまでテーマを考えるガイドラインとして提示しており、記載されていない内容のテーマを取り扱っていただいても全く構わないと考えており、全て網羅しながら議論をしていかななくてはいけないというような趣旨で出したものではない。（逸見係長）

- ・順番にということではなくて、何回か行われる中で、1回で一つのテーマを終わらせるということではないかと思う。例えば一つのテーマについて1回とか2回である程度、意見交換して、今回は議事録としてまとめるということ。（鈴木議長）
- ・一つのテーマで通年やるわけではないということなので、次回の会議で話し合う協議テーマを、今、決めているということであれば、次回以降は、時間がかからないように事前に議論したいテーマを考えておかなければならないと思う。結局、今、話しているのは、次回の会議のためだけのテーマを考えるということを行っているかと理解して良いか。（高橋委員）
- ・まずは、取り急ぎ、次回の会議において何を話すべきかというテーマを決めておいたほうがスムーズにいくため、議論をよろしくお願ひしたい。（鈴木議長）
- ・次回については、事務局からお示しいただいた三つの案の中から決めておいたほうが、よろしいのではないか。（高橋委員）
- ・期せずして臼井委員に、人生100年時代の生涯学習という大きなテーマの中で、各世代における生涯学習の在り方など、その辺をいろいろと議論したいという御提案があった。次回は議論の最初のテーマであるので、各世代における生涯学習の在り方、社会教育の在り方について議論をし、ICTや高齢者、子どもたち、青年期というように、最初に色々と整理できるのかなと思っている。そのため、今回はこの「人生100年時代と生涯学習」というテーマの中で、各世代のいろいろな生涯学習の在り方について、課題や今後こういうふうに進めていくべきだというようなことを議論できれば、今後の議論のテーマにもつながっていくと思っている。

今年度は、本会議は3回の実施を予定しており、また、来年度も何回か会議があるので、次回のテーマをきっかけに皆様方からも今後テーマにつながる関心事項な

どを御発言いただきたいと思う。なお、次回の意見交換を行うに当たって、資料の提供など、ぜひ、積極的にご協力いただければと思うので、何かあれば事前に事務局のほうに申し出ていただくなど、情報提供もよろしくお願いしたい。（鈴木議長）

## 7 連絡事項

次回の開催は10月頃を予定。後日日程調整を依頼する。